

第3回糸島市中小企業振興審議会 会議録

【日時】令和3年4月26日（月）9：30～ 11：30

【場所】糸島市役所 1号会議室

【出席者】委員：村上会長 福島副会長 大館委員 中原委員 吉田委員 小津委員
藤野委員 丸田委員 尾崎委員 大城委員 安武委員

事務局：大神部長 松本課長 中島係長 上田主任 甲斐主事

【欠席者】委員：岡本委員

事務局：秋山課長補佐

【内容】

1. 委嘱状の交付 丸田委員
2. 会長あいさつ
3. 議事

（1）糸島市中小企業振興計画（以下、「計画」という）について

会長	<p>商工会、同友会が実施した事業者アンケートの回答 367 件のうち、有効な回答を分析した。アンケート結果を重視するのではなく、参考程度に見てほしい。</p> <p>その上でアンケート結果をブラッシュアップし、最終的なアンケートの位置付けを決める。</p> <p>計画策定スケジュールによると、本日は施策、事業の審議を行うことになっている。施策、事業については、実施時期も審議する。どの施策を優先すべきか意見が欲しい。また、他の施策はいつからスタートさせるか、既に実施している施策にどう関連性を持たせていくかも検討する。次回審議会では施策のスケジュールを含めた素案を提示し、審議できればよいと思う。</p> <p>今回は提示した素案について事前に意見照会を行った。頂いた意見への対応について事務局から説明をお願いする。</p>
事務局	<p>〈資料“第3章「施策の展開」に関する意見とその対応”に沿って事務局より説明〉</p> <p>計画では、基本的な取り組みの方向性を示し、具体的な事業は計画策定後に検討する。事業化の際には、必要に応じアンケートやヒアリング調査などで課題を抽出していく必要があると考える。</p>
会長	<p>事務局から施策の項目を提示すると、枠組みのイメージがつきその範囲でしか意見が出てこないの、委員から施策の項目を提案してもらった方が良いのではないかと考えていた。しかし、中々イメージできないものを掘り下げても意見が出ないので、ある程度項目を提示し、それについて意見を求めるという形式で進めた。事務局からの説明の通り、具体的に事業を実行していくのは施策の項目が決まった後。</p> <p>現時点で質問はあるか。</p>
委員	<p>計画（素案）11 頁（1）経営基盤の強化の施策3について、主な取り組みに“経営改善資金の公庫融資に対する利子補給支援”と記載されている。経営改善資金融資を実</p>

	施しているのは公庫だけであるが、民間金融機関の利子補給支援はしないのか。
事務局	利子補給支援は公庫融資に限った事ではない。修正する。
委員	15頁(2)労働環境の整備の施策1“就労しやすい環境の整備”について、対象は企業か。労働者か。
事務局	対象は企業である。
委員	資料“第3章「施策の展開」に関する意見とその対応”の私の意見である42番「市事業者が事業計画策定の促進」について、正しい意図が伝わっていないので補足説明する。 意図は、市全体で労働環境を整備しなければならないという機運を高めることである。市内における働きやすい職場の表彰制度、例えば、北九州市が率先して実施しているイクボス宣言制度を市の施策として取り入れることで、事業者が「それをしないとまずいよね」というように機運を高めることができると思う。
会長	〈会長が作成した当日配布資料で説明〉 計画の“第3章施策の展開”について、各項目で取り組むことは分かるが、全体の仕組みが見えない。どういう仕組みを形成すべきか確認し、その仕組みのうえでこの情報をここに流すというような連携を明確にしていく必要がある。そうすることで施策に不足している項目や仕組みが見えてくるのではないか。 資料“情報のタイプ間の関連図”では、情報発信者から情報がどう流れるかという全体の構図がわかる。 施策の取り組みを考えると、誰がどんな情報を発信しなくてはならないのか、他の施策とはどう関わっているのかを位置付けていくと良いと思う。例えば、糸島ブランド製品を売る場合、情報発信の仕組みは、市内向けと市外向けでかなり違う。また、情報を発信するだけでなく、市と事業者と市民で連携する情報交流の場が必要になってくる。実際に糸島市ではどのような情報交流の場を形成するのか。福島委員がされている既存の仕組みをベースに形成するのか、あるいは新たに仕組みを形成する必要があるのか。市がICT活用に取り組み、市民にとって非常に使いやすい仕組みが実現できると、求めている情報を見つけやすく、シンプルな構造の情報交流の場が実現できると思う。 次に、資料“中小企業の事業上の問題への対応”について説明する。 自社の課題は把握しているが、相談先がわからないというケースは多いと思う。相談者が「こういう問題がある」という情報発信を受けて、相談先を提示できる体制が必要。さらに、相談を受ける仕組みだけでなく、指導を受けられる仕組みも重要になってくる。この仕組みを実現するために、市、中小企業各団体、金融機関で相談、連携できるような体制になればよいと思う。 一方、問題なのは、自社の課題が明確でない事業者への支援体制だ。このような場合、例えば、セミナー、グループワーク、ワークショップ等で課題を抽出できることがある。市が講師や進行役派遣を支援できれば、実現しやすい体制ができると思う。 そうすると、今挙げた項目を実際に具体的に落とした時、全体のシステムの構図や

	<p>どんな形で動かしていけるのかについてのシンプルなイメージ図があれば、そこにどんなコンテンツを載せていくのかというところが具体的な施策になっていくのではないかというイメージ。そのシステムそのものが複雑であればあるほど機能しない可能性があるので、どれだけシンプルにシステムを作っていくかというのを一つの柱にすればいいのかなというイメージがあり、当日配布した資料を作成した。</p> <p>委員が施策を考える際に、1枚にまとめたシンプルな全体のイメージ図があると、整理しやすく、他の施策との関係性が見えてくる。さらに既に実施している市の取り組みも図中にあると、重複を防ぎ、既に実施していることを活用した事業提案があるかもしれない。</p> <p>私個人としては、箇条書方式の文章で施策を並べられてもイメージできない。絵でパッと見て、実施することがわかるように、最初に全体図が1枚あると非常に良いと思う。</p>
委員	<p>事業者に興味を持たせることが大事なので、シンプルでわかりやすい計画にすべき。また、条例が絵に描いた餅にならないように、計画を早く策定し事業者に興味を持たせることも大事。</p> <p>情報発信については、興味を持ってもらえるように発信する側も工夫しなくてはならない。商工会会員 1500 事業者に対し、職員が常々情報発信しているが、まじめな事業者はどんなことでも興味をもってもらえるが、意識が低い人に興味を持たせるのは難しい。またセミナーに関して、するに越したことはないが、多く実施しても、興味を持ってもらえていないため、役に立っていない。</p>
委員	<p>情報発信の仕方、情報の在り方をシンプルに見やすくすることが大事。問題が起きたときに支援情報を調べるが、どう見たらいいのかわからない。ホームページを見てもわからないときがある。後から支援を知ることもある。</p>
委員	<p>各団体が連携できれば、情報発信を幅広くできるのではないと思う。</p>
委員	<p>一番の課題は、情報が届いてない小規模事業者、中小企業者が多いことだ。市が機運を高めることにより、小規模事業者の機運も高めていくことから取り掛かる必要がある。機運を高める方法については、今後の計画づくりで具体的なアイデア出していく。</p> <p>いくらいいセミナーを開催しても意識の低い事業者に届くのは難しいと思う。</p>
委員	<p>村上会長が提案した全体イメージ図作成について、切り口としてはその通りだと思う。市民にこの切り口で訴えるというアイデアは斬新だと思うが、イメージができない。全体イメージ図にすると一定のメッセージは端的に伝わるが、伝わらないことも多い。工夫が必要であるが、作成してみる価値はある。</p>
会長	<p>素案 4 頁の将来像について、市民（消費者）を巻き込むような文言をいれたほうが良いのではと事務局に提案していた。</p> <p>市民も中小企業振興に関わっていける仕掛けがあればよい。例えば、市民にも、中小企業振興のために何をやっているか公開すると、関わりたいと思う人がでてくる。学生もこういう情報があると関わりたいと思う人がでてくる。実施する施策内容を分</p>

	<p>かりやすく情報発信し、市民に浸透させ、関心持ってもらうための工夫がかなり必要。</p>
委員	<p>事前の意見照会では、普段思っていたことと、仕事柄補助金関連に関わっているの そちらに偏った意見をあげた。</p> <p>施策は網羅されていると思うが、糸島市独自の施策があればよいと思う 個人的には農業以外を強化したい。糸島ブランドをさらにもう一歩進めたいと思っ ている。</p> <p>去年、福岡市中小企業サポートセンターで仕事をしていたので、福岡市の施策と絡め ながら意見した。</p>
委員	<p>社会保険労務士として身近の中小企業事業主と接する中で、「自分たちの事業を地域 コミュニティのどこで発信したらよいかわからない」という相談が多い。</p> <p>また、事業者には各種支援情報が行き届いていないとも思う。知らなければ損をしてい るという実態がある。地域のコミュニティの方も「こういう事業者があればぜひ使っ てみたい、商品を買ってみたい」と思うことがあると思う。そういう顔が見える地域 コミュニティの在り方ができたらよいと思う。糸島市は福岡市に比べると、住みやす く、柔軟性もあり、多様な働き方もできる、そういった地域の強みがあると思う。</p>
委員	<p>情報発信とそれがいかに受け手に届くかが重要と思う。</p> <p>情報が羅列されていると、どこから見ていいか、どれが関連しているのか分からない ので、情報を整理することが必要。情報整理にもいろんな切り口があると思う。例え ば、「働きやすさ」「事業所規模」など、「私にあてはまるのかな」と分かる切り口を もって情報を整理していくことが一つ方法だと思う。</p> <p>また、情報発信しているが、全然見てもらえていないと実感することがある。現代は、 とにかく同じことでも何度も言わなければいけないと凄く感じている。</p>
会長	<p>情報整理の仕方で見え方が全く変わってくるので、同じ情報でもうまく整理でき るといような形で関心持ってもらえる可能性はある。どのような整理基準を設けるの か具体的に検討する必要がある。</p>
委員	<p>糸島市として、中小企業のみなさんに対し、こういう街にしていきたいという一つ大 きな分かりやすいメッセージが必要。その目指している姿を中小企業の方たちに認 識してもらえれば、自ずと問題が起きたときに相談をしに行こうとなると思う。一つ シンプルな相談窓口があれば、とりあえずそこに行こうとなると思うので、そういう 仕掛けができれば良いと思う。</p>
副会長	<p>情報発信するから機運が醸成され、機運が醸成していくと情報に飛びついていく人 が増えるというのは、ニワトリと卵の話のような気がする。意識のある方は、自分の 探し方で情報を得るが、情報を探してくれない方に対しては、方々から、いかに情報 を伝えていくか重要になる。多種多様な属性の方に対して、全方位的な興味関心に引 っかかること軸に情報発信をし、機運を高めていくことが大事と感じた。</p>
会長	<p>今、項目ごとに施策が表記されているが、実施時期区分で整理し表記しなくてはなら ない。つまり、体系で表されているものを時間軸で整理する必要がある。そうすると</p>

	<p>時期区分に応じて関連性がわかる。また、「この時期にはここまで到達できるものにする」というように、目標を指標化しやすい。施策ごとにスケジュールを入れる、若しくは施策のスケジュールだけをまとめたものが別にあってもいいのではないかと思う。</p> <p>委員には、施策を時間軸で整理してきてほしい。次回の審議会でスケジュールを含んだ素案を提示し、具体的な事業について審議できれば良いと思う。</p>
事務局	<p>次回の審議会までに、スケジュールを含んだ素案を提示することは時間的に難しいかもしれない。委員に事前の意見照会を1回行う。照会内容は村上会長と相談して決める。</p>
会長	<p>第3章では、施策が項目ごとに並んでいるが、表記の順番が早いものから実施するという解釈でよいか。</p>
事務局	<p>施策1から順に実施するイメージで表記している。</p>
会長	<p>委員のみなさんはこの施策を見たときにどういうイメージを持ったか。</p>
委員	<p>第3章1(2)施策1「新商品および新サービスの開発促進」について、審議会で新商品を考えるのか。</p>
会長	<p>審議会で新商品を考えるのではない。審議会では、新商品開発をサポートする仕組みを考える。</p> <p>アイデアを出すとき、自分たちだけで考えるのではなく、学生と一緒にワークショップを行うと、良いヒントがもらえることがある。</p> <p>新商品を生み出すとき、まずはコンセプトを決めるが、コンセプトの出発点は「世の中をよくしたい」である。これは企業理念に共通する。企業理念をしっかりと考えている会社ほど、商品化に取り組みやすいと言える。</p> <p>第3章1(1)施策2において、“経営理念の策定”とあるが、単に策定しただけでは絵に描いた餅になる。実際に経営理念を念頭に置きながら事業を実施し、何か形になる経験をすると、経営理念を考えることの大事さに気づける。</p> <p>この気付きを持ってもらう情報交流の場を作る必要があるが、どう作るのか意見が欲しい。</p> <p>また、他の施策においても情報交流が必要なものについて意見が欲しい。</p>
事務局	<p>“第2章 現状と課題”について、after コロナ、with コロナでどう変化していくのかを含め、現状の共通認識をする必要がある。また、“9頁 3課題の整理”について、課題に対して実施する施策を考えて欲しい。</p>
委員	<p>12頁施策3に“ICT活用講座”を明記したのは非常に良いと思う。ICT活用には予算がかかり、手が回りにくいのが、急いで取り組むべきだと思う。他の施策は他市町村でも実施しているが、ICTに取り組んでいる市町村は少なく、計画に明記した意味は大きい。</p> <p>施策のスケジュールの時間軸は、細分化する必要がある。5年計画の中で、初めの1,2年の主題を考える必要があるが、私はICT活用講座が良いと思う。</p>
会長	<p>ICTといっても非常に幅が広い。ICTの種類によっては、簡単に使えるのに、知らな</p>

	<p>いから使っていないという場合がある。使い方を学ぶ場が必要。</p> <p>“第2章 中小企業の現状と課題”について、どこまで書くのが非常に難しい。私個人としては、記載されている課題は古く、今の課題ではないと思う。企業がB to Cという手法を使って急速に成長をし始めたことによって、サブスクリプションなどの様々な方法を使って急成長しているというデータがある。つまり、ICTを上手く活用しないとやっていけない状況が出てきている。糸島市にICTの基盤があると、起業したい人もかなり出てくる可能性はある。</p>
委員	<p>審議会で審議した事業について、予算に反映され実行されるのはいつか。</p> <p>R3年度が計画の初年度になるが、R3年度に事業を実施することは可能か。</p>
事務局	<p>10～11月に次年度当初予算を組むので、R3年度に事業を実施することは不可能。</p> <p>また、計画を策定し、それに伴い施策を考えていくことになるが、予算には限りがあり、施策が必ずしも予算化され実行されるわけではない。また、施策には優先順位を付けなければならない。</p> <p>予算がかからない事業は、R4年度の事業計画として計上したい。施策に反映するためにアンケートやヒアリングを必要性に応じて実施し、事業を検討していく。</p>
会長	<p>“第4章 計画推進に向けて”について、審議会に提案する会議体を制度化するとよいと思う。一般的な審議会の場合は、ワーキンググループを作って議論することが基本になるが、この場合だと色々な人の意見が反映されない。公募し、意見をもらい審議するという形態にしてはどうか。当初はワーキンググループ形態で様々な団体に参加していただくと考えていたが、制度的に難しい。審議会の中で分科会を作って審議することも考えられる。ただ我々だけで意見を出すのではなくて他の方の意見を吸い上げるといった場をこちらからみなさんに投げかけて出してもらって、審議会で精査しながらまとめていくという提案。これについて何か意見あるか。</p>
委員	<p>良い。</p>
委員	<p>一般市民から公募するのか。</p>
事務局	<p>審議会で、事業化する施策の優先順位を決めて、それについて様々な方から意見もらうために公募する。公募による意見を審議会で議論し、事業化を計っていく。</p>
委員	<p>公募による意見を審議するのはいつか。</p>
事務局	<p>配布した資料“糸島市中小企業振興計画の策定スケジュール”は、計画策定までのスケジュールなので、公募による意見を審議する時期は掲載していない。</p> <p>計画を策定し、施策の優先順位決定後、本年度の冬季にもう1回審議会を開催して、公募をかける予定だ。</p>
委員	<p>決定した実行計画は来年度実施できるのか。</p>
事務局	<p>来年度実施はスケジュール的に間に合わない。R5年度実施する予定。</p> <p>新しい施策を立ち上げるには、実施前年の7月には案ができていなければならない。</p>
会長	<p>施策には、審議会だけで実施決定ができるものと、審議会だけでは実施決定ができないものがある。</p> <p>ICTは他課が取り組んでいると思うが、庁内の調整次第で、それに上手く便乗して実</p>

	行するということではできると思う。
事務局	庁内調整を図ることは可能。
委員	意見を公募し、審議会で審議した事業を予算化、実施するまでのスケジュールを書面に残してほしい。
事務局	事業実施までのスケジュールを書面にする。
委員	会議体に全ての施策や事業の検討を依頼するわけではないという理解でよいか。
事務局	全ての施策や事業の検討を依頼するわけではない。 なお、第4章の会議体の体制は、実施してみて、必要性があれば柔軟に変えていけるような書き方をしている。
(2) その他	

4. その他

(1) その他

(2) 次回審議会の開催日時

日時：5月24日（月）13：00～15：00（予定）

■閉会